

## 奈良市音声館あり方検討のためのワークショップ 事業報告書(案)

### 1. 概要

#### ■ 趣旨・目的

奈良市音声館は平成6年の設置から現在まで、伝統的な芸能の継承並びに音楽及び演芸の振興を図り、市民の文化の向上に資することを目的に様々な取り組みを行ってきた。しかし、少子化等を背景とした来館者数の減少や新たな文化的なニーズへの対応など、昨今では課題を抱えるようになっている。

そのなかで、様々な立場や知見を有する者たちが、文化施設としての奈良市音声館の今後の可能性について、ワークショップ形成で意見を交換することで、施設運営に関する新しい視点やアイデアがうまれることを目指す。

#### ■ 実施概要

##### ① 音声館の未来をつくるアイデア会議

日 時:令和 6 年 7 月 23 日(火)午後 2 時~4 時半

場 所:奈良市役所 602 会議室

参加者:文化施設・公共施設関係者	4 人
大学生(奈良県立大学)	10 人
文化振興計画推進委員	2 人
市職員(施設勤務含む)	9 人
計	25 人

##### ② 音声館の未来をつくるおもしろ会議

日 時:令和 6 年 8 月 2 日(金)午後 6 時~8 時

場 所:奈良市音声館 会議室

参加者:市民、施設利用者 17 人

奈良市総合財団職員 1 人

奈良市文化振興課職員 4 人

計 22 人

## 2. 事業内容

### ① 音声館の未来をつくるアイデア会議

ファシリテーター 風間 勇助 氏(奈良県立大学講師)

#### 【全体の流れ】

- ・ 市文化振興課から音声館の現状と課題について説明
- ・ 「音声館(文化施設)のイメージ」について、グループごと(全4グループ)で意見交換を行い、出た意見をふせんに書き出し、グルーピングを行う。その後、各グループから出た意見の発表。
- ・ 「As Is/To Be:音声館の現状は?どうなったら良さそう?」について、同様にグループワークを行い、発表。
- ・ 「現状で取り組みそうな解決策は?」について、同様にグループワークを行い、発表。

#### 【参加者のコメント・発表内容から】

##### 「音声館(文化施設)のイメージ」

- ・ 外から中が見えないなど、施設に入りにくく、閉鎖的でさみしいイメージ
- ・ 落ち着いた雰囲気。古く、懐かしい感じがする。人との距離が近く、知り合いに会う場所。
- ・ わらべうたのイメージは強く、伝統文化・芸能に関する施設として知られている。
- ・ ピアノの発表会など、晴れの場であり、音楽関連のイベントのイメージが強い。その他、演劇やダンスに関連する施設という意見もあった。
- ・ 利用しているのは、高齢者、子ども、地域の人というイメージが強かった。
- ・ 駅から遠い、道が細いなど、アクセスが悪いイメージがある。
- ・ 建物に関しては、町家風外観というイメージがある。
- ・ 何をしているかわからない、自分には関係ない施設という意見が多かった。
- ・ 「おんじょうかん」という名前が読みにくく、知名度が低いイメージがあった。
- ・ 使用料は安いイメージがあった。

##### 「As Is/To Be:音声館の現状は?どうなったら良さそう?」

- ・ 利用者が限定的になっているという現状については、誰もがふらっと入れるような施設になると良い。市民以外の観光客・訪日外国人も訪れやすいようにするなどの意見があった。
- ・ 利用者が減少しているという現状について、いつ訪れても何かしらのイベントを楽しめるようにすること、音響などの設備を充実させること、学生主体のイベント・ワークショップの場所とすることなどの意見があった。
- ・ 施設の使いづらさについては、飲食できるスペースやカフェをつくるなどの意見があった。
- ・ 企画事業など、魅力的な取組みがなされていないという現状について、取り組んでみてはどうかという具体的なアイデアがいくつもあがった。
- ・ 知名度が低いことについては、SNSの活用を推進するという意見が多くあった。
- ・ 資金や人員不足など、施設の運営に関する課題については、ならまち全体での施設運営の推進などが

あげられた。

「現状で取り組みそうな解決策は？」

課題：利用者減少

- ・ 施設名称・ネーミングを変えることやサブ名称「〇〇〇〇の館」を一新するなどの提案があった。
- ・ 他の施設との連携企画や外国人向けのイベント開催などの提案があった。
- ・ その他、学生の楽器練習やカラオケ事業などの提案があった。

課題：若者が訪れるためには

- ・ ならまち大学祭など、学生同士の交流が生まれるイベント開催の提案があった。
- ・ インスタグラムなどのSNS発信を活発に行うことの提案があった。

課題：施設の間口を広げる！

- ・ 幅広い用途で使用してもらえるように条例を変えることの提案があった。
- ・ エントランスに人がいることが分かるようにすることや入口を広くすること、土産物屋やカフェなどをつくることなど、施設の使い方についての提案があった。

課題：ターゲット層が狭い

- ・ 文化×観光、住民×観光客、子ども×学生など、さまざまなクロスオーバーが生まれる、ハイブリッド型施設になることの提案があった。
- ・ 夏の夜店・夜市、おばけやしき、子ども図書館、ハンドメイド教室、エントランスバーなど、幅広い人が興味を持つような企画展開の提案があった。

【まとめ】

- ・ 施設職員や行政職員、学生など、さまざまな視点で、実現性に捉われない自由な発想でのアイデアを発言いただけただ。
- ・ 利用者数を増やすためにも幅広い用途で使ってもらえるような取組みに関する意見が多かった。現在も、貸館使用で用途を制限しているようなことはないが、特定の目的の施設というイメージが強いものと思われる。
- ・ ならまちという地域性からか、訪日外国人を含めた観光客へのアプローチが必要ではないかといった意見も多くあった。
- ・ 名称についての意見も多かった。施設名称だけでは、どのような目的の施設であるかが分からないと考えた人が多かったと思われる。

## ② 音声館の未来をつくるおもしろ会議

ファシリテーター 上田 假奈代 氏(NPO 法人こえとことばとこころの部屋(ココルーム)代表)

### 【全体の流れ】

- ・ 冒頭に、「本日の調子」や「自身の性格」などの質問に対して、部屋全体を使い自分の位置で回答を行うワーク「空間マッピング」を行った。
- ・ 「空間マッピング」のなかで、「音声館のことで言いたいことがある人」という質問があり、回答の後、数人のグループでどんな意見を持っているかを共有した。
- ・ 参加者全員が手紙を書くワークを2つ行った。1つめのテーマは「音声館に来たことない人へ」または「音声館に寄附をいただくために」のどちらか、2つめのテーマは「音声館にむけた手紙」であった。
- ・ 手紙を書いた後は、全員が自分の書いた手紙を読み上げた。

### 【参加者のコメント・発表内容から】

音声館に初めて来る人や寄附を考えてくれる人に向けて

(こんな音声館になってほしいとの思いをこめて)

- ・ 体験できるときもあります、見るだけでも大歓迎です、気軽にお立ち寄り下さい。
- ・ 奈良の、日本の伝統的な現代的な文化の魅力を発信できる場所。
- ・ 奈良の人々が歌い継いできたわらべ歌を保存し、いつまでも歌い継いでいくそんな取り組みを見ることが出来ます。
- ・ 奈良町のまん中で子どもたちが安心して遊ぶことができる“場所”。
- ・ ここに来ればきっとあなたも昔のあそびやわらべうたを思い出すでしょう。
- ・ 通ってみたい教室が見つかるかも?!こんどはあなたがコンサートなど企画する側になるかもしれません!
- ・ 「ならまち」のなかにあって、ひなびた感じの良い場所です。近くにはカフェもあり、散策するにはおすすめ
- ・ 音声館は地域の人が気軽に利用できる文化施設
- ・ 奈良市民だけでなく、奈良を感じてもらえる市以外の方にもたくさん利用してほしい
- ・ 奈良時代絵巻のスペクタクルショーを天平音楽と壮大なコーラス
- ・ コンサートが定期的に行われています。コンサートは飛び入り参加もできます。また、館内に保管されている楽器に触れあう事もできます。
- ・ 音声館に来たら日本の音楽の歴史が明らかになります。音声館では今後様々な古くからの芸能を復元する予定です
- ・ 昔の子ども達の遊びも経験できる、年齢関係なく楽しめる所です。
- ・ 表現と対話の間。
- ・ わらべうたの資料なのか現代美術なのか絵画なのかはわかりませんが、気軽に来れる場所をつくっていきたい。
- ・ 子供の頃を思い出し、なつかしさを感じてください。

- ・ 奈良の人たちが集まっていて、あなたにいろんな奈良のことを教えてくださいよ。
- ・ 市民が気軽に音楽や演劇といった文化的イベントを行える場所はそう多くありません。「場所がなくなれば消える」グループも多いでしょう
- ・ 音声館では、これらの日本文化を楽しく学べる教室がたくさんあります。
- ・ 奈良の子どもたちはそんなわらべうたで遊んでいます。「わらべうたの館」音声館に是非来て下さい。

#### 音声館に向けてのメッセージ

- ・ 小さな文化団体にとっては 100 人規模のホールは貴重な場所
- ・ わらべ歌教室をはじめ、様々なプログラムで盛り上げてきた
- ・ 子どもの数も減り、環境の変化がある。今の状況に即した形があるはず。
- ・ 娘は音声館に育ててもらったようなもの。価値は 50 年と続くもの。
- ・ これからもわらべうたや音楽を伝え続けてほしい。
- ・ 奈良の地で培ったノウハウや歴史の記録の数々は奈良だけでなく日本の財産。
- ・ 観光に来られた方にもっと利用しやすい施設にするにはどうしたらいいか。
- ・ 古きを大事にし、新しいことをとりこみ次の 30 年も成長してほしい。
- ・ メールやオンラインでの施設使用申込ができればいい。
- ・ 現状を維持してほしい。
- ・ 入りにくいのでフランクな雰囲気にしてほしい。ホームページもわかりやすくしてほしい。
- ・ 世代間、地域間のコミュニケーションの中心としてがんばってほしい。

#### 【まとめ】

- ・ 「手紙」という方法により、音声館に対する思いを整理していただき、誰かに伝える形にさせていただくことで、参加者の実際の思いを知ることができるワークとなった。
- ・ これまで音声館を利用してきた方からは、施設や事業への愛着を感じることができた。また、現状を維持してほしいという施設利用者の声もあった。